

岐阜労働基準監督署
令和4年6月2日発表

担 当	岐阜労働基準監督署	
	副署長	脚ノ 勝
	安全衛生課長	辻 健夫
	電話	058-247-2369

令和3年における労働災害の発生状況について

—死亡者数が過去10年で最多の10人—

岐阜労働基準監督署（署長：大谷 徹）は、管内（岐阜市、羽島市、各務原市、山県市、瑞穂市、本巣市、岐南町、笠松町、北方町）で発生した労働災害の発生状況をとりまとめました。

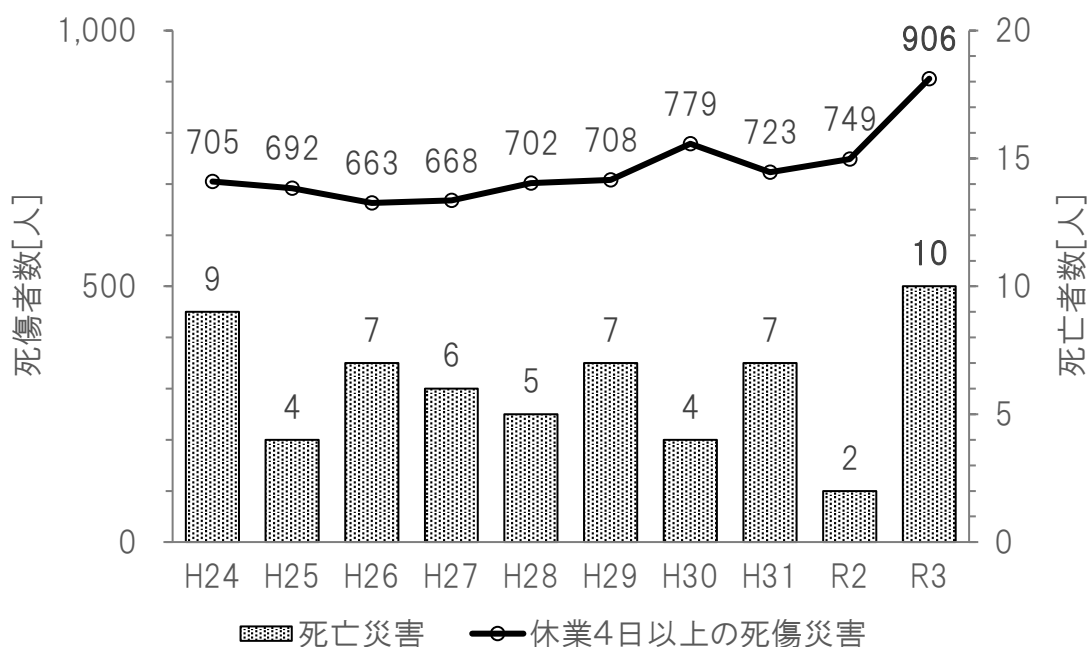
ポイント

- 1 令和3年の労働災害による死傷者数（休業4日以上）及び死亡者数は過去10年で最多となった（職場で新型コロナウイルス感染症に罹患した者を含む）。
 - (1) 死傷者数は、前年（令和2年）の749人から906人と157人（21.0%）増加し、平成30年の779人を超え過去10年で最多となった。
 - (2) 死亡者数は、前年の2人から10人と8人増加となり、平成24年の9人を超え過去10年で最多となった。
 - (3) 背景として、新型コロナウイルス感染症の影響により事業場における安全衛生活動が低調になったこと等が考えられる。
- 2 死亡災害では、機械によるはさまれ・巻き込まれ災害（3人）、トラックからの荷役作業中の災害（2人）が目立つ。日常の作業に潜むリスクが表面化したものと言え、当署ではこのような労働災害リスクの低減措置を講じるよう事業者に指導することとしている。

⇒ 詳しい災害発生状況は [別紙](#) をご覧ください。

労働災害発生状況(1)

(休業4日以上の死傷災害、岐阜労働基準監督署管内)



- 令和3年の労働災害による死傷者数（休業4日以上）及び死亡者数は過去10年で最多となった。

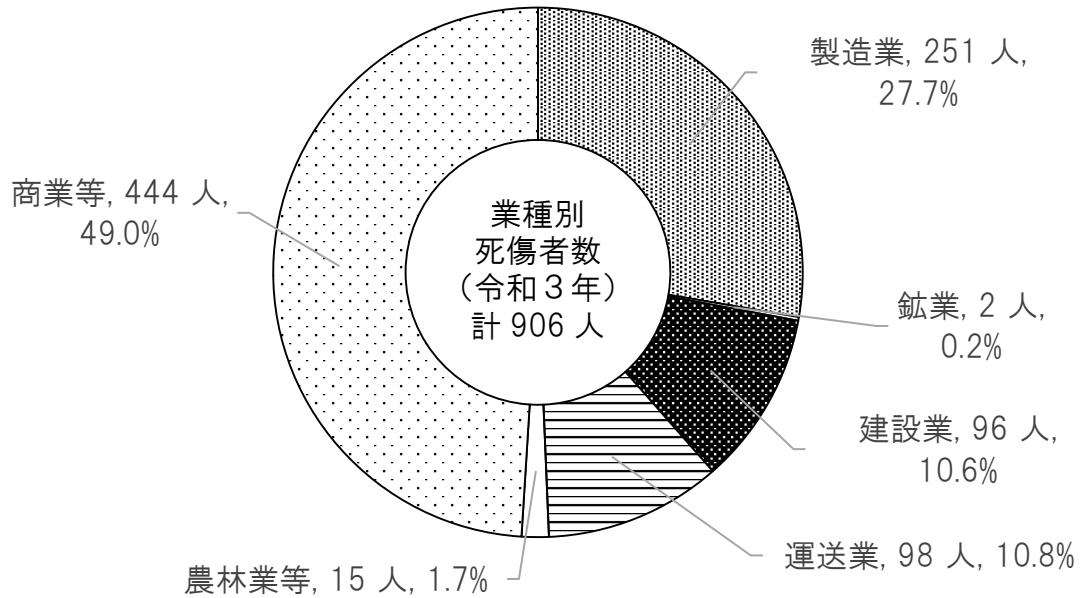
業種	令和2年		令和3年		増減数	
全業種	749	(2)	906	(10)	+157	(+8)
製造業	194	(0)	251	(5)	+57	(+5)
鉱業	0	(0)	2	(0)	+2	(0)
建設業	78	(1)	96	(2)	+18	(0)
運送業	67	(0)	98	(3)	+31	(+3)
農林業等	18	(0)	15	(0)	-3	(0)
商業等	392	(1)	444	(0)	+52	(-1)

(休業4日以上の死傷者数(人)。()内は死亡者数で内数。)

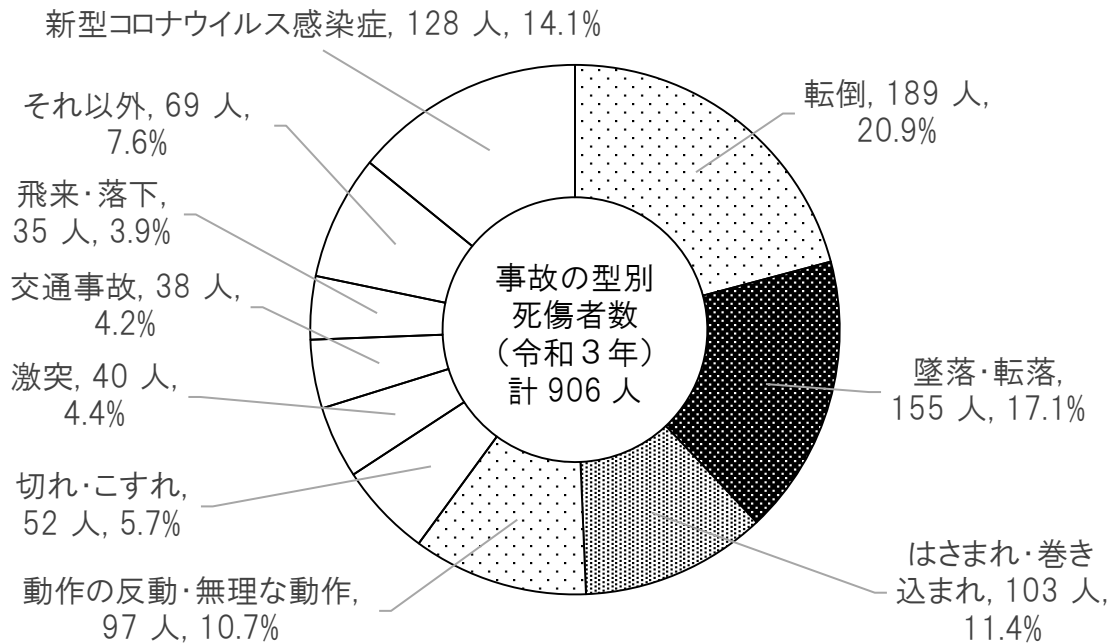
- 前年に比べいずれの業種でも概ね増加した。

労働災害発生状況(2)

(休業4日以上之死傷災害、岐阜労働基準監督署管内)




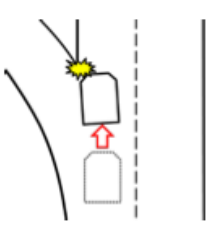

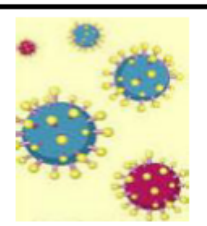

- ・ 商業等の第三次産業が全業種の約半数を占めた。

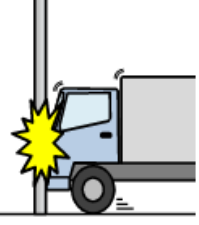

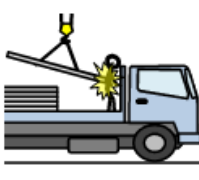




- ・ 死傷者数を事故の型別で見ると、多い順に「転倒」(189人、20.9%)、「墜落・転落」(155人、17.1%)、「はさまれ・巻き込まれ」(103人、11.4%)、「動作の反動・無理な動作」(97人、10.7%)となった。

労働災害発生状況(3)

(令和3年 死亡災害、岐阜労働基準監督署管内)

番号	発生日	業種	性別	職種	年齢層	災害発生の概要 (概要の内容は、同種災害防止の見地等から編集を加えています。)	略図 (同種災害防止の見地等から編集を加えています。)	事故の型	起因物
1	1月	ハイヤー・タクシー業	男性	バス運転手	60代	被災者は、委託を受けたバスの運転業務を終え、委託先のバスの車庫から徒歩で帰宅する途中、地面が凍結していたため、転倒して頭部を強打し、病院にて入院加療していたが、約6か月後に死亡した。 同種災害を防止するための対策例 ・冬季は、路面等の凍結により転倒の危険性が高まるため、凍結しやすい箇所には、凍結防止剤の散布や注意喚起の表示等の転倒防止対策を講ずること。 ・滑り止めの付いた靴等を着用させること。		転倒	通路
2	2月	陸上貨物取扱業	男性	運転手	50代	国道上をトレーラーで走行中、本線と側道との間に設けられた分離帯に衝突し、その3日後に外傷性大動脈解離により死亡した。 同種災害を防止するための対策例 ・法定速度を遵守し、周囲の状況を確認しながら運転を行うこと。 ・交通労働災害防止の安全教育を実施すること。		交通事故(道路)	トラック
3	3月	パン、菓子製造業	男性	食品品製造従業員	40代	包装機の原料投入用バケットに原料を入れ、バケットの上昇ボタンを押し、その後、バケットが上昇している途中でバケットの蓋を開けバケットの中を覗き込んだところ、上昇中のバケットと梁の間に首から胸を挟まれた。 同種災害を防止するための対策例 ・危険区域に柵、囲い等を設けること。また、インターロックを施す等進入を検知して装置を停止させる安全装置を設置すること。 ・非定常作業を含めた安全な作業手順書を定め、周知徹底を図り、運転時に挟まれによる危険性があることなどについて、あらかじめ安全教育等を実施すること。		はさまれ・巻き込まれ	食品加工用機械
4	4月	その他の建設工事業	男性	管理者	60代	被災者は、新型コロナウイルス陽性者の同僚と車に同乗したところ、翌日に発熱し、PCR検査にて新型コロナウイルス感染が判明した。そして、後日死亡した。 同種災害を防止するための対策例 新型コロナウイルス感染拡大防止のために「職場における新型コロナウイルス感染症の拡大を防止するためのチェックリスト」を活用し、新型コロナウイルス感染予防に取り組むこと。		その他	その他の起因物
5	5月	その他の金属製品製造業	男性	金属研ま工	70代	カップブラシを取付けた手持式グラインダーを用いて溶接箇所の仕上研磨を行っていた被災者が、首にエプロンと当該グラインダーが巻き付いて気を失って倒れている状態で発見された。社長がエプロンの首紐を切る等して救出し救急搬送するも窒息による死亡が確認された。 同種災害を防止するための対策例 被服等が巻き込まれるおそれのない、作業服等を着用すること。		はさまれ・巻き込まれ	研削盤・パフ盤

番号	発生日	業種	性別	職種	年齢層	災害発生の概要 (概要の内容は、同種災害防止の見地等から編集を加えています。)	略図 (同種災害防止の見地等から編集を加えています。)	事故の型	起因物
6	5月	パン、菓子製造業	男性	運転者	70代	<p>製品の配送を担当している被災者が事業場で所有する業務用トラックを運転して走行中、対向車線を通り越えて道路脇の電柱に激突し、死亡したもの。</p> <p>同種災害を防止するための対策例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運転前の車両点検、運転者の体調確認を行うこと。 ・法定速度を遵守し、わき見運転しないで運転させること。 ・交通労働災害防止の安全教育を実施すること。 ・可能であれば、車両に衝突防止等の安全装置を装備すること。 		交通事故(道路)	トラック
7	6月	その他の建設業	男性	作業員・技能者	80代	<p>事業主と被災者でトラックの荷台からフレコンバックを重機でおろす作業中、被災者が荷台に設置されているハンゴを昇降していた時に社長が運転してトラックを重機に近づけようとバックしたため、被災者はハンゴから墜落し、病院へ搬送されたが2日後に死亡したもの。</p> <p>同種災害を防止するための対策例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業場内でトラックを移動するときは必ずトラックの周囲の状況を確認し、付近で作業を行っている者がいるときは、トラックが移動することを知らせてから移動させること。 ・可能であれば、誘導員等を配置し、監視させること。 		墜落・転落	トラック
8	7月	一般貨物自動車運送業	男性	運転者	60代	<p>荷主先において、門型クレーンを用いてトラックの荷台から荷をおろす作業中、トラックの荷台で玉掛けをしていた被災者が地切りした荷とトラックのキャビンの間にはさまれ、搬送先の病院で死亡したもの。</p> <p>同種災害を防止するための対策例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・玉掛け作業者は、地切りするときは、荷振れした荷と接触するおそれがある範囲に立ち入らないこと。 ・クレーン運転者、玉掛け作業者に定期的に安全教育を実施等により安全意識の高揚を図ること。 		はさまれ・巻き込まれ	クレーン
9	7月	その他の輸送用機械等製造業	男性	作業員・技能者	50代	<p>専用治具をトラックの荷台からおろすため、2つの専用治具を結束していたラッシングベルトを解いたところ、1つが荷台から落下して荷台の近くにいた被災者が下敷きとなり、搬送先の病院で死亡したもの。</p> <p>同種災害を防止するための対策例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・荷台からの荷下ろし作業を行う場合で荷の落下等による危険がある箇所への作業中の立ち入りは禁止すること。 ・また、荷の固定は、荷台から落下しないように荷ごとに固定すること等が望ましいこと。 		飛来・落下	機械装置
10	11月	その他金属製品製造業	男性	その他の金属加工業者	40代	<p>被災者は、伸線機で、右足で寸動のフィットスイッチを踏み左手で鋼線を押さえながら巻取り作業を行っていた。何らかの要因により、自動運転スイッチが「入」となり、鋼線を押さえいていた左手が鋼線に引っ張られ、機械と鋼線の間で顔から頸部がはさまり、死亡したもの。</p> <p>同種災害を防止するための対策例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スイッチが誤って押されないようカバーをつけること。 ・リスクアセスメントやKY活動を行い、作業員の安全意識を高めること。 		はさまれ・巻き込まれ	その他の金属加工機械